



## 秋季火災予防運動 (11月9日～15日) 『お出かけはマスク戸締り 火の用心』

### 住宅防火・命を守る10のポイント

- 4つの習慣
  - ①寝たばこは絶対にしない、させない /
  - ②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない /
  - ③こんろを使うときは火のそばを離れない /
  - ④コンセントはほこりを清掃し、不要なプラグは抜く
- 6つの対策
  - ①火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろなどは安全装置の付いた機器を使用する /
  - ②火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する /
  - ③火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具・衣類・カーテンは、防災品を使用する /
  - ④火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置し、使い方を確認しておく /
  - ⑤お年寄りや体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく /
  - ⑥防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

### 防火ポスターコンクール結果

- 正しい火の取り扱いや住宅用火災警報器の設置を推進する作品を募集し、次のとおり入賞作品を決定しました。
- <彦根市消防長賞>  
上川 創介さん(高宮小5年)
- <彦根防火保安協会会長賞>  
木原 寧音さん(城北小5年)
- 【金賞】音瀬 太心さん(高宮小3年)  
【金賞】右近 武琉さん(金城小5年)  
【金賞】品田 瑛太さん(中央中1年)  
【銀賞】松本 沙瑚さん(城南小3年)  
【銀賞】伊吹 結愛さん(城南小6年)  
【銀賞】大西 椿さん(豊日中2年)  
【銀賞】森 彩瑠さん(多賀中2年)  
【銅賞】太田 奈歩さん(城北小3年)  
【銅賞】小林 心音さん(河瀬小4年)  
【銅賞】松下 歩夢さん(西中3年)  
【銅賞】宮川 優奈さん(多賀中2年)  
【銅賞】黒柳 芽以さん(西中3年)



119番通報するときは、慌てず落ち着いて

11月9日は、昭和62年から地域住民と消防をつなぐ電話番号にちなんで、「119番の日」と定められています。落ち着いて、正しい通報をするように心がけましょう。

消防本部通信指令課  
☎22-0119 FAX 27-0119



11月7日(月)まで  
「上田道三彦根の歴史風景を描くー」  
上田道三(1908～84)は彦根に生まれ、京都や奈良で絵を学んだのち彦根に戻り、城郭や古民家等を愚直に描き続けた画家です。本展では、道三が描いた彦根の風景画を中心に、画壇で活躍した若き日の作品も展示し、その画業の全貌を紹介します。

11月10日(木)～12月6日(火)  
「彦根藩井伊家の刀剣」  
江戸時代の大名は、名物をはじめとする多くの刀剣を有していました。本展では、当館が所蔵する井伊家伝来の刀剣と豊富な古文書を通して、彦根藩井伊家が所持していた刀剣の全容に迫ります。

刀 無銘 伝長船倫光 ▶

■ スライドトーク  
【日時】11月12日(土)14:00～(30分程度)  
【解説】当館学芸員 【場所】講堂  
※無料(観覧料は別途必要)  
※当日受付(先着50人、受付は13:30～)

企画展関連講演会  
「井伊家伝来刀剣 名刀の履歴書」  
江戸時代、彦根藩井伊家が有した刀剣の中には、名物をはじめとする名刀の数々が確認できます。これらの来歴や魅力について、古文書や写真などを通して紹介します。  
【日時】11月19日(土)14:00～15:30  
【解説】当館学芸員  
【場所】講堂  
※資料代100円(観覧料は別途必要)  
※当日受付(先着50人、受付は13:30～)

▲短刀 銘 来源国次(名物 来源国次)

■11月8日(火)、同9日(水)は、展示替えのため一部休室します。

## チケット情報

### ひこね市文化プラザ

11月23日(水・祝) 14:00～16:00 メッセホール

### 子ども向け芸術体験 アルコールインクアートでクリスマスカードづくり

講師:浅井稚晶(atelier.Lion) (参加費)500円(当日支払い)  
 <対象>小学生(付添可能) <定員>15人(先着順)  
 <持ち物>ドライヤー、ハサミ、汚れてもいい服またはエプロン  
 <申込方法>11月1日(火)9:00～  
 ひこね市文化プラザチケットセンターの電話・窓口で受付(初日は電話のみ)



12月24日(土) 9:30(9:00受付)

### 第13回 直弼杯囲碁大会 出場者募集

<場所>彦根商工会議所(中央町)4階大ホール <対象>アマチュアの方 <定員>120人(先着順) <対局方式>申込状況により、段・級位を考慮して、8クラス程度に分かれて対局 <競技形式>各クラスごとに準スイス方式(詳細は当日説明) <費用>一般:1,000円、中学生以下:500円 <申込期間>11月8日(火)～同22日(火)【必着】  
 ※はがきに①住所・郵便番号②氏名③フリガナ④年齢(小・中学生は学校名・学年も)⑤電話番号⑥段・級位を書いて「ひこね市文化プラザ直弼杯囲碁大会事務局」あて(〒522-0055野瀬町187-4)にお送りください。はがき1枚につき参加者は1人まで。

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)  
 チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/

11月の休館日: 7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】  
 ※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。  
 ※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

【ひこね市文化プラザ・みずほ文化センターでは、次の感染症対策を実施しています】▶館内設備の定期消毒 ▶手指消毒液の設置  
 ▶飛沫飛散防止カーテンの設置 ▶非接触型体温計の常備 ▶新型コロナウイルス感染拡大防止システム「もしサボ滋賀」の表示の設置

### みずほ文化センター

12月10日(土) 14:00 多目的ホール

### 劇団むら「森のともだち」※3歳以上有料

【企画】【好評発売中】前売500円、当日600円

劇団むらによる児童劇  
 「きみだあれ?」と「ともだちできた!」をお送りします。



令和5年1月14日(土) 14:00 多目的ホール

### みずほ寄席「新春落語まつり」

<出演>笑福亭兎瓶、笑福亭恭瓶、笑福亭風喬、笑福亭呂翔 / 入谷和女(三味線)

【指定】【11月5日(土)発売(窓口9時～、電話13時～)】

一般 / 前売1,500円、当日1,800円  
 高校生以下 / 前売1,000円、当日1,200円

「ほっかほかラジオ」でお馴染みの笑福亭兎瓶さん出演の新春落語会です。初笑い、ぜひみずほ寄席で!



申込・お問い合わせ先  
 みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00～17:00)

11月の休館日: 1日(火)、4日(金)、8日(火)、15日(火)、22日(火)、24日(木)、29日(火)

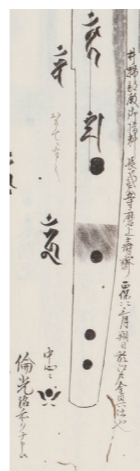
◎表記の価格は全て税込価格です。  
 ◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。

彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来刀剣の中には、名工らが手掛けた60口の刀身が今なお美しい輝きを放っています。これに加え、大正12年(1923)の関東大震災で罹災した焼身刀剣も約300口伝来しています。今回は伝来刀剣の1口を紹介いたします。

写真①の刀は、「刀 無銘 伝長船倫光」と呼ばれる作品です。全長96・7cmという長身に大きな鋒、身幅のある勇壮な姿は、伝来刀剣の中でも屈指と言えるでしょう。作者とされる倫光は、備前国(現岡山県東部)長船派の刀工で、南北朝時代に活躍しました。本作も、大鋒の太刀が流行した南北朝時代らしい長さで、山形を連ねた互の目の刃文は、倫光が得意とする刃文です。現在、この刀は刀工の銘(サイン)を確認できませんが、江戸時代初期の様子がかげえる記録が残されています。それが、江戸時代の金工・埋忠重長(寿意)やその子らが携った刀の押形集を写した『埋忠刀譜(写真②)』です。同書には、刀の来歴や、所有者の名前などが詳細に綴られています。倫光の刀については、寿意が磨り上げたことのほか、刀の下部に「倫光」と刻まれている。磨り上げの際にその部分が「朽ち」たと記されています。さらにこの刀が「井掃部殿御指料」であることも書かれています。

指料とは自身が用いる刀剣のこと  
 で、「井(伊)掃部

▶①刀 無銘 伝長船倫光(裏面)



▶②「埋忠刀譜」(部分)

写真の作品は、企画展「彦根藩井伊家の刀剣」で11月10日(木)～12月6日(火)の期間、展示します(期間中無休)。

【彦根城博物館学芸員 古幡昇子】  
 写真的作品は、企画展「彦根藩井伊家の刀剣」で11月10日(木)～12月6日(火)の期間、展示します(期間中無休)。

は彦根藩井伊家の当主です。寿意は、正保3年(1646)に没しているため、存命中の「井掃部」に当たるのは2代直孝(1590～1659)で、この刀が彼の指料であったことが分かります。

実は、この刀は、井伊家歴代の当主指料を記した「御代々指料帳」では、「直澄様御指料」として掲げられています。しかしその脇に「直政公御指料 直孝公ヨリ直澄公へ御譲り」とも添えられており、倫光の刀が、初代直政(1561～1602)から3代直澄(1625～176)まで代々受け継がれていた可能性を示しています。

数ある井伊家伝来刀剣のうち、江戸時代初期に井伊家が所持し、かつ当主の指料であったことを確認できる例は非常に稀です。本作は、倫光が制作した豪剣であるとともに、井伊家における歴史が分かる稀少な作例として注目される1口です。

## 倫光の刀—井伊直孝の指料—

## とよみの玉手箱

博物館からのメッセージ